

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02408

研究課題名(和文) 未発掘・未紹介の近世実録写本の調査と、実録の叙述の特徴に関する研究

研究課題名(英文) Research on unsearched and unpublished manuscripts such as early modern actual records,

研究代表者

菊池 庸介 (Kikuchi, Yosuke)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30515838

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、中山大納言物実録をはじめ、複数の実録群に属する新出資料や、実録群を形成するに至らない(大半は敵討ち物)単独の新出実録資料を発掘・紹介した。たとえばそのうちのひとつ『中山深秘録』については、中山大納言物実録群の中での位置づけをするとともに、叙述方法について、講談との関わりの強いことを明らかにした。このほか、広く読まれた『慶安太平記』(慶安事件物)に現れる森宗意軒の手がかりに、人物造型の特徴や、明治初期活字翻刻本への影響についても解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世実録は、歴史的事実とは異なるような、伝説化した事件、あるいは事件の裏話的なものを多く含み、現在の情報の伝達の問題にも関わってくる題材である。その前提のもと、本研究の成果は、近世文学の中でも研究が遅れ、かつ近年にわかに注目を浴びている近世実録(実録体小説)には、どのような話があるのかを、新出資料の探索によってサンプルを増やし、また、実録はどのような叙述方法があるのかを分析することで、如上の前提への示唆を与え、実録研究を進展させることが出来た。また、サンプルの中には伝統芸能との関係が想定できるものもあり、双方の特徴の一面を明らかにすることもできた。

研究成果の概要(英文)：In this research, we have discovered and announced new materials that belong to multiple actual recording groups, such as Daizen Nakayama's actual recordings, as well as new actual recording materials that do not lead to the formation of actual recording groups (most of them are enemy attacked objects). For example, one of them, "Nakayama Shinkansho," was positioned in the Nakayama Dainagon Memoir Group, and it was clarified that the narrative method was strongly associated with the talk. In addition, he also clarified the characteristics of human figure formation and its influence on the early Meiji era printouts by using Mori Soiken, which appears in the widely read "Keian Taiheiki" (Keian Incident).

研究分野：日本近世文学

キーワード：近世文学 実録

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近世実録の研究は、日本近世文学研究領域の中では歴史が浅く、遅れていると言わざるを得ない。研究開始当時、実録への関心は高まりつつあったが、研究の遂行には大きな問題があった。それは、実録の全貌(どのような事件を扱った実録がどれくらい存在するか、何点くらいあるのか)が、把握できていないことである。『日本古典文学大辞典』に立項されている範囲程度(それでも7~80種類ある)については、これまでの研究によって、すでにおおよそその諸本系統は明らかにされている。しかしそれらは、実録を代表するごく一部であり、近年は、少しずつ現れてきた実録研究者によって、それ以外の実録についても研究が進められつつあるが、それでも実録の大半は、未発掘、未紹介とって過言ではない状況であった。

加えて、実録が他ジャンル文芸の素材として広く利用されていることは知られているが、その素材としての実録を探索する研究にせよ、他ジャンル文芸研究の側から見れば、実録を素材にしていることが予測できても、該当する実録がどれかわからない、という問題が生じている。いきおい、実録研究者のそれぞれの知見の範囲で素材を指摘することも多い。最近では、それまで全くと言って良いほど存在が知られていなかったり、ある所蔵場所で見つかったりするような、いわば、(現在の目から見ると)マイナーな実録が素材に用いられている事例も報告されている。このようなケースは他にもあることは容易に予想できた。この実録探索は、実録のみならず他ジャンル文芸研究の進展にも大きく寄与すると考えた。

また、すでに諸本系統の明らかにされている実録についても、従来知られていない系統の実録を目にすることがあり、このような事例が今後も現れることはじゅうぶんに予測でき、実録研究を専門にする者が、集中的継続的に紹介していくことが求められた(これは研究期間終了後もあてはまる)。

いっぽう、これまでの実録研究を通じては、いくつもの実録に、似たような趣向や筋の展開、登場人物名などが現れていることが見て取れた。そこで、実録としての筋立ての方法や脚色の方法に、類型的なものがあるのではないかと考えるようになってきた。そしてこういったタイプの抽出を推し進めることで、実録の筋立ての方法の一体が解明できるのではないかと、また、中には完全な「創作」もある実録の、「創作」かどうかを見分ける目安を作ることができるのではないかと考えた。さらには、抽出した類型やその他の内容的特徴を見ていくことで、実録を享受するような当時の民衆層における、事件の受け止め方、あるいは事件に対しての、こうあって欲しいという願望の傾向が伺えると予想した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで全く、あるいはほとんどその存在・内容を知られていなかった近世実録写本を中心に探索、調査していくことを通じて、

調査結果のリスト・解題を作成し、全体の点数がどれくらいわからない実録の、全貌把握に向けた一助とする。

作成した解題に基づき、実録がストーリーに用いられる類型を抽出し、実録が筋を作るときに叙述のひとつのあり方を解明する。

実録の筋立ての方法や内容を知ることを通じて、当時の民間における事件の解釈の特徴や、近世の人びとの嗜好を明らかにする、

これまで指摘されてこなかった、他ジャンル文芸作品との新たな交流関係を発見し、それぞれの叙述方法の特徴を探っていく。

以上の四点を考究し、近世実録の研究を進めていくことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、以下の方法で行った。

・国文学研究資料館「新日本古典籍総合データベース」「日本古典籍総合目録データベース」を用いて、「実録」「実記」「秘録」「仇討」「敵討」「報讐」「復讐」「騒動」等のキーワードを用いて実録とおぼしい書名を抽出、記載されている所蔵先に出向き調査(所蔵先の蔵書目録も確認し、あわせて実見の必要があれば、それも一緒に調査)し、データを増やしていった。

・収集した実録の内容を分析し、登場人物(人物名)、筋の展開、用いられる趣向など気になる事象を見だし、同様の事象の見える実録と比較。また、人物についてはとりわけ森宗意軒に注目し、それについては、同時代の実録だけでなく、近代初期のボール表紙本『慶安太平記』での描かれ方を、国立国会図書館のデジタルアーカイブを参照して、描写を分析していった。また、森宗意軒については伝説享受例を確認するため、実地調査も行った。

・次項「研究成果」で具体的に挙がっている実録については、そのテーマとなっている実録を集中的に調査・収集し、内容面での特徴を抽出していった。たとえば「中山大納言物」における『中山深秘録』については、それと講談の台本『都歌賀美』とを比較し、内容上の類似と、それぞれの独自性を確認した。

4. 研究成果

研究期間における成果は以下の通りである。

- 1、未発掘・未紹介の近世実録資料データの蓄積
- 2、実録における叙述の特徴の解明

3、他ジャンル文芸との交流の検討

1では、研究期間中、国文学研究資料館、長野県飯田市立図書館、愛知県豊橋市立中央図書館、長崎県肥前島原松平文庫、東京大学教養学部など、各地の図書所蔵機関、あるいは個人宅に出張し、書名・内容ともに新出のもの、内容は従来知られているが書名が初出のもの、書名・内容ともに従来知られているが新たに所蔵の判明したものなど（書名は従来知られているが内容が初見のものは見出せなかった）、近世実録の所在データを約150点、収集することが出来た。

2の成果は、ひとつは、島原天草一揆の首謀者として実在し、それ以外の事件を題材とする実録にも登場する森宗意軒に注目し、慶安事件を扱った『慶安太平記』における森宗意軒の表象を明らかにしたことが挙げられる。妖術使いのキャラクター化がされ、近代以降の『慶安太平記』活字翻刻本、あるいはそれをもとにした絵本類では、宗意軒が妖術を表す場面もしくは由比正雪と出会う場面が挿絵として描かれ、構図も類型化していく様子を解明した（「海辺の森宗意軒」として発表）。この研究については、熊本県天草市にある森宗意軒神社等の実地調査も行った。

もうひとつは、十八世紀末におきた「尊号一件」を題材とする「中山大納言物」実録群を例に、叙述の方法や歴史認識のあり方などについて考察した。先行研究を踏まえつつ、諸本系統を立て、各系統における叙述の方法を明らかにしていった。たとえば、最も流布した一群（『中山記』系統）においては、他の実録群にも当てはまるような登場人物の関係がうかがえることを指摘し、また、従来あまり取りあげられることのなかった『中山深秘録』では、講談と距離が近いことを明らかにし（この過程で、『中山深秘録』に基づくとと思われる、講談の台本（写本）も見つけ出すことが出来た）そこに見える方法に基づき、享受者側の嗜好のようなものを確認した。さらに、「中山大納言物」では、近代以降の言説を追い、近世実録で形成された虚構が、近代以降の歴史観によって修正されるいっぽうで、虚構もまた小説や少年向けの歴史読み物などに、形を変えながら受容されていくことを明らかにした（「実録「中山大納言物」の諸特徴」、「実録から講談・歴史的読み物へ」、「中山深秘録」を読む」他発表）。

3については、この期間中、近世実録と他ジャンル文芸との交流関係を新たに確認することは叶わなかったが、豊臣秀吉伝説のうち「中国大返し」・「清洲会議」を例として、実録『太閤真蹟記』と『絵本太閤記』との比較を行い両者の内容的な違いを明らかにした。さらに『川角太閤記』

『太閤記』なども視野に入れた検討を通じて、実録や絵本読本の内容における特徴、筋立ての方法についても分析した。また、近世実録に密接する近世軍記の方法にも目を配るべく、黒田長政の実説・伝説をたどり、それぞれの軍記における長政や長政が関わるエピソードの記し方を明らかにした（「黒田長政 説得役・交渉役として」として発表）。

以上の研究成果を通じて、近世実録の諸特徴の解明を一步進めることができた。それに加え、近世実録の探索の継続を前提としつつ、実録の享受の様相について明らかにすることに比重をおいた研究を今後も行っていく必要があると考えるに至った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 菊池庸介	4. 巻 66-9
2. 論文標題 『中山深秘録』を読む 定信嫌いの、池田治政	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本文学』	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池庸介	4. 巻 212
2. 論文標題 黒田長政：説得役、交渉役として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学(関ヶ原はいかに語られたか：いくさをめぐる記憶と言説)	6. 最初と最後の頁 118-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 菊池庸介
2. 発表標題 写本文化と近世実録
3. 学会等名 明星大学人文学部日本文化学科国際シンポジウム「写本がひらく江戸へのトビラ」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊池庸介
2. 発表標題 日本近世文学における「城郭の怪異」 版本や近世実録などの写本からうかがえるもの
3. 学会等名 説話・伝承学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 飯倉洋一、盛田帝子、久保田啓一、菊池庸介他全19名、菊池は15番目	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 408
3. 書名 文化史のなかの光格天皇	

1. 著者名 鈴木健一、根来麻子、岩田芳子、松本真奈美、林悠子、湯浅幸代、西山秀人、北村昌幸、森田貴之、五月女筆志、田代一葉、東聖子、宮本祐規子、日置貴之、菊池庸介、津田真弓、藤澤茜、杉下元明、中村ともえ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 308
3. 書名 浜辺の文学史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----